

オケクラフトセンター  
 森林工芸館の

あれこれ

no.08  
 11  
 2020



オケクラフトは  
 私たちの何気ない生活の中にあります  
 生活道具として  
 普段の生活に馴染みやすいよう  
 デザインされた製品たちは  
 木の温もりとともに  
 ちよつとした豊かさを与えてくれます  
 今回は オケクラフトがどんな風に  
 生活の中で取り入れられているのか  
 森林工芸館の取り組みとともにご紹介します



pick up

きほんのおはなし

オケクラフトとは…

置戸町の「オケ」、昔から地域産業として生産されていた曲げ桶の「オケ」と、「クラフト」を合わせた地域クラフトブランドです。工業デザイナーの故 秋岡芳夫さんが名付け親で1983年に誕生しました。エゾマツをはじめとした道産材を使い、器やカトラリーなど、暮らしの道具を作り手が製作しており、現在町内には24の個人工房があります。

【食器だって食育のひとつ - 給食器】

子どものうちに手に触れる食器だって、食育のひとつなのです。1983年にオケクラフトが誕生してから2年後の1985年、木製給食器による給食が秋田小学校で開始され、試作・検討を重ねたオケクラフトが導入されました。2014年からは町内のこども園、小学校、中学校、高校すべてで使用されています。

◎給食の他に、普段家でも使っているので、身近な存在です。  
 ◎他の食器より温かさを感じ、とても手触りがいいと感じています。  
 置戸中学校二年生からの意見



【給食器の導入】

地域の素材と生産技術を生かした新しいモノづくりとして誕生したオケクラフトは、日常生活のなかで使われ、試され、さらに発展することが目標でした。できることなら、置戸の素材を使った美味しい料理が盛り付けられることを願って、木製給食器の試作がオケクラフトの誕生と同時に始められました。(30周年記念誌より)

年	内容
二〇一四年	置戸高校が給食提供に伴いオケクラフトを導入
二〇〇九年	新しい置戸小学校で飯椀、汁椀、パン皿、角盆の給食器セットを導入
一九九二年	九月、置戸小学校と置戸中学校でパン皿の部分導入
一九八五年	秋田小学校で導入
一九八四年	第六回町民憲章推進大会に併設された第一回「白い器オケクラフト展」で試作モデルが発表

【誕生のお祝い - すくすくギフト】

すくすくギフトは、「元気にすくすく育ってほしい。」そんな願いをこめた、置戸町からこの町で生を受けたお子さんへのお祝いの品です。離乳食から大人になるまで、毎日使う食器は大切。だから「飯椀、汁椀、お皿、カップ、スプーン、トレイ」と、毎日使えるオケクラフトのオリジナルセットをお届けしています。

作り手みんなが、子どもに使いやすいデザインを話し合っていて、考えながら製作しています。木に触ってもらいなから、ずっと成長とともに、使っていてくれると嬉しそうです。

木工房 ICHIGO 松本 佳悟さん



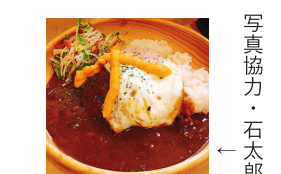
【気軽に食卓へ - 日常使い】

オケクラフトは日常使いできる生活道具。生活の中に気軽に木を取り入れることができます。普段の料理でも、オケクラフトで盛り付けていつもの食卓を彩ります。もし、何を使ってみようか迷ったら、普段使いしやすいイタメヘラやお箸がオススメです。



【愛される器に - 町内での利用】

町内いくつかの飲食店では、カップや汁椀、白樺ボウルなどをご利用いただけます。実際に使えることはとても重要！町内のお店で手に取ることで、オケクラフト疑似体験ができるんです。また、色んな使い方の参考にも！町内飲食店のみなさん、いつもありがとうございます！



写真協力・石太郎